和歌山ろうさい病院広報誌

わろうて

～わかやまろうさい病院からのおてがみ～





和歌山ろうさい病院
副院長　岩橋　誠

厳しい暑さが続いた夏が過ぎ、ようやく過ごしやすい季節となりました（実は、厳しい残暑の中で本稿を書いています）。皆様、体調はいかがでしょうか。歯止めのかからない物価上昇に加え、この異常な暑さには、心身ともに大きくこたえる夏だったのではないでしょうか。

最高気温が40℃以上となる日を指す「酷暑日」が、今年4月、気象庁によって正式に定められました。それを象徴するように、本年は西日本を中心に、観測史上最多となる延べ36地点で酷暑日が記録されました。

日本だけでなく世界各地でも、熱波、大規模な山火事、豪雨や水害など、気候変動の影響を感じさせる災害が相次いでいます。氷河崩落に端を発したネパールの土石流の映像には、気候変動がもたらす地球規模の危機を強く感じさせられました。

一方、気候変動とは直接関係しないとされる地震についても、7月には熊本で最大震度7強の地震が発生し、甚大な被害が報告されました。当院からもDMATチームを現地に派遣し、災害医療支援に当たりました。被災地の報道を目にするたびに心を痛めるとともに、「災害に対して常に備えを万全に」という思いを新たにしました。当院では、毎年、さまざまな事態を想定し、病院全体で災害訓練を実施しています。しかし、有事の際に訓練どおりに行動できるのかという懸念は、当然あります。そんな中、外科医である私にとって特に衝撃的だったのが、JCHO熊本総合病院（八代市）で撮影された、震度6強の地震発生時の手術室の映像です。激しい揺れの中で身を挺して患者さんを守る医療者の姿が映し出されていました。「こんな揺れ方になるのか……」と言葉を失うほどの衝撃的な映像でした。機材が激しく揺れる中、身を挺して患者さんを守る外科医師や麻酔科医師、転びながらも安全の確保や機材の復旧に奔走する看護スタッフの様子が映し出されています。有事においても医療従事者の献身的な姿勢が貫かれた貴重な映像として、大手医療情報サイトにも動画付きの記事が掲載され、現場の医療スタッフの奮闘に高い関心と賞賛が寄せられていました。手術の最中にこれほど激しい揺れが起こった場合、果たして自分は彼らのように冷静に動けるだろうかと、正直、不安を感じました。まさに、一瞬の判断と日頃の訓練の重要性を思い知らされる映像でした。この動画は、熊本総合病院のホームページ内「支援・詳細」のサイトで公開されています。

暗い話題ばかりではありません。甲子園では智弁学園和歌山高校が大本命の横浜高校を破って勝ち進み、見事に優勝しました。決勝戦は休日だったため、私もテレビの前で声を上げて応援しました。野球に限らず、若者が“純粋な気持ち”で目標に向かい、懸命に努力する姿には、私たちを勇気づけ、前を向かせてくれる力があります。さまざまな困難に直面する中でも、私たちも少しずつ前進していかなければならないと、あらためて感じました。

当院は、平時・災害時を問わず、地域の皆様に安全で安心な医療を届けることを使命とし、病院一同、努めております。一方で、医療機器や資材、光熱費の高騰など、医療環境は厳しさを増しております。今後も地域医療を支え、私どもの使命を果たし続けるため、地域医療機関の先生方をはじめ、地域の皆様にも、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本医療機能評価機構認定病院
地域医療支援病院

独立行政法人労働者健康安全機構
和歌山ろうさい病院

〒640-8505 和歌山県和歌山市木ノ本 93 番 1
TEL.073-451-3181（代）　FAX.073-452-7171（代）・073-451-3788（地域連携室専用 FAX）
E-mail.soumu@wakayamah.johas.go.jp　URL.https://www.wakayamah.johas.go.jp/

和歌山ろうさい病院の理念　地域の人々と勤労者に、地域医療機関と密接に連携しつつ、安全に十分配慮した最適な医療を提供する。

循環器内科のご紹介

和歌山ろうさい病院循環器内科は現在常勤医5名の体制で診療に当たっております。

取り扱う疾患としましては、高血圧、虚血性心疾患、心不全、弁膜症、不整脈、大血管中血管疾患、静脈疾患等、循環器領域の疾患につきましては概ねカバーしています。

ただし当院には心臓血管外科と不整脈専門医がおりませんので、手術を要するような重症弁膜症や大動脈瘤などは心臓血管外科のある施設へ、またカテーテルアブレーションを必要とする不整脈につきましては、不整脈専門医のいる施設への紹介を行っております。

心筋梗塞や不安定狭心症などの急性冠症候群に対する緊急カテーテル治療は、待機医師が24時間365日体制で救急対応し、急性期治療を行っています。

冠動脈治療において大きな課題である高度石灰化病変に対してはロータブレーター、ダイヤモンドバック、ショックウエーブといった石灰を粉砕するデバイスを積極的に用いることにより、良好な結果が得られています。

閉塞性動脈硬化症の治療にも積極的に取り組んでおり、年間60件程度の血管内治療を行っています。最近は大腿膝窩動脈領域の治療においては、なるべく長いステントを留置せず、薬剤コーティングバルーンを用いて治療することが多くなっており、ステントと同程度以上の良好な成績を得ることができています。

近年は高齢者の大動脈弁狭窄症などの弁膜症患者様が増加しています。90歳を超えるような高齢者でもカテーテルを用いた弁膜症治療が行われることが多く、治療成績も向上しています。

当院は施設基準を満たさないため、弁膜症のカテーテル治療を施行することはできませんが、実施施設への橋渡しをさせていただいています。自覚症状が乏しくとも、心雑音が気になるような患者様はまず当科に紹介していただければ幸いです。

今後も地域住民の皆様、周辺医療機関の方々に信頼していただけるように、常に丁寧な診療を心がけていきたいと考えています。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



患者サポート・入退院支援センターの紹介

―入院前から退院後まで『切れ目のない支援』を目指して―

患者サポート・入退院支援センターは平成29年に開設され、今年で9年目を迎えました。当センターには看護師と医療ソーシャルワーカー（MSW）が所属し、患者様やご家族が安心して治療や療養に臨めるよう、入院前から退院後まで切れ目のない支援を行っています。地域の医療機関や医療・介護・福祉に携わる皆様と連携しながら、患者様が住み慣れた地域でその人らしい生活を続けられるよう取り組んでいます。

当センターでは、入院前から生活状況や退院後に必要な支援について確認し、多職種で情報を共有することで円滑な退院支援につなげています。入院前支援においては、看護師による面談に加えて薬剤師による持参薬の鑑別や服薬指導も行い、安全に治療が受けられる体制を整えています。また、院内に相談窓口を設置し、医療費や社会保障制度の利用に関する相談をはじめ、がん相談や治療と仕事の両立に関する就労支援など、さまざまな相談に対応しています。

地域連携の取り組みとして、「地域連携看護の会」を開催し、地域の医療・介護関係者との情報共有や交流を行っています。また、認定看護師による「ナーシングセミナー」を開催し、地域の医療従事者への知識・技術の向上支援にも取り組んでいます。

また、こうした病院内での支援に加え、退院後の生活環境や療養状況を確認するための「退院後訪問」も必要に応じて実施しています。病院職員と地域の医療・介護従事者が連携し、患者様やご家族が退院後も安心して在宅療養を継続できるように支援しています。

これからも地域の関係機関との連携を深めながら、患者様とご家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援するとともに、地域に信頼されるセンターを目指して取り組んでまいります。



令和８年10月新任医師紹介



佐々木（ささき）　有見子（ゆみこ） 先生

泌尿器科部長

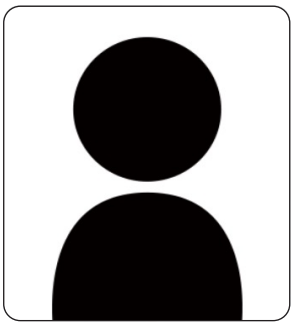
新たに赴任致しました佐々木と申します。地域の皆様に寄り添える診療を心がけていきたいと思います。よろしくお願いします。



川路（かわじ）　祐輝（ゆうき） 先生

消化器内科副部長

患者さんに寄り添った診療を大切にし、安心して受けていただける苦痛の少ない内視鏡検査を提供します。



臼池（うすいけ）　倫太郎（りんたろう） 先生

皮膚科医師

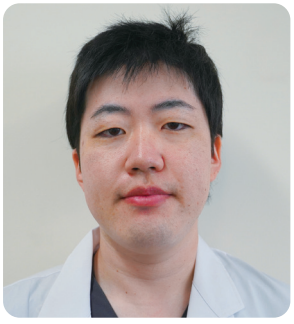
まだまだ若輩者ですが、みなさまと共にがんばっていこうと思いますので、どうぞこれからよろしくお願いします。



中畑（なかはた）　明耶（あきや） 先生

消化器内科医師

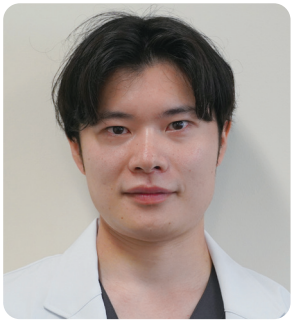
3年ぶりに帰任いたしました。地域医療に貢献できるよう尽力いたします。よろしくお願いします。



中野（なかの）　雄斗（ゆうと） 先生

内科医師

半年ぶりに戻ってまいりました。なかなか忙しいですが、皆さんに支えられて、楽しく働いていきたいと思います。



土井（どい）　優希（ゆうき） 先生

脳神経内科医師

地域の皆様に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。